

しゅごしょ とがしやかたあと 守護所 富樫館跡

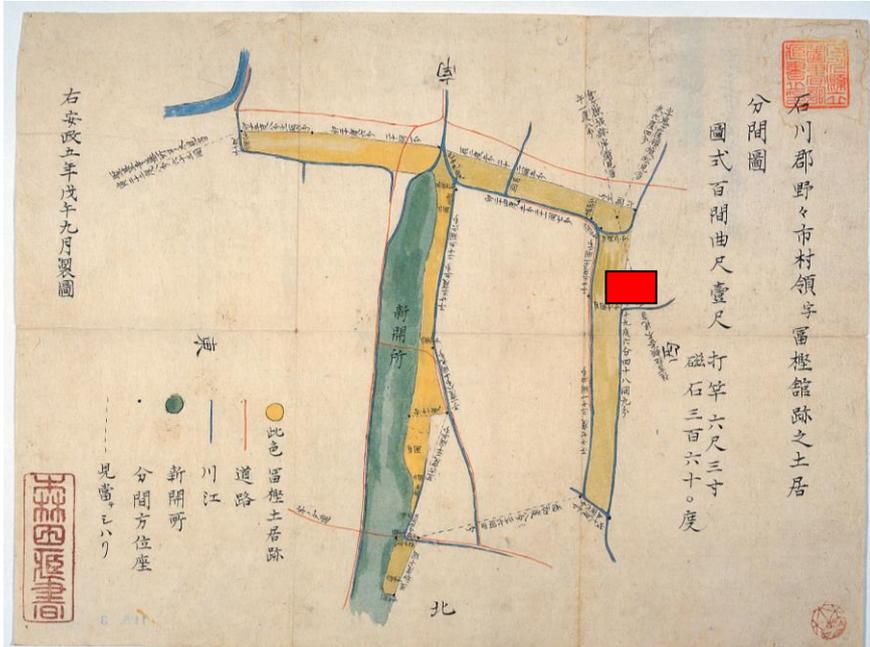
富樫氏は、^{ふじわらとしひと}藤原利仁の流れをくむ加賀斎藤氏の一族で、高橋川中流域の富樫郷を拠点としました。同じ斎藤氏の一族で先に勢力を強めていた林氏は、1221年（^{じょうきゅう}承久3）の承久の乱で朝廷方につき衰退します。富樫氏は幕府方についたことから、加賀における武士団の筆頭となりました。

1335年（^{けんむ}建武2）、富樫^{たかいえ}高家は加賀国の守護に任じられ、館を野々市に置きます。富樫氏が構えた館が、政務を司る守護所にあたりと考えられます。1488年（^{ちょうきょう}長享2）、守護富樫^{まさちか}政親は一向一揆^{いっこういっき}によって敗北しますが、その後政親の^{おおおじ}大叔父の富樫^{やすたか}泰高が守護職を引き継ぎます。しかし、実権は一向一揆がもち富樫氏の勢力は衰えていきます。一向一揆と^{おだのふなが}織田信長の抗争が始まった1570年（^{げんき}元亀元）に復権を企てた富樫^{はるさだ}晴貞は一向一揆に討たれ、富樫氏は滅亡します。富樫館はこれ以降に廃絶していったと思われます。

江戸時代の1858年（^{あんせい}安政5）に森田平次は、富樫館を測量して絵図を描いています。絵図には^{ぼうぎょ}防御のため館の周囲を囲っていた^{どい}土居の一部を記しています。

明治時代に入ると、館とその周辺は水田耕作のため土居が崩されて整地され、その痕跡をみることができなくなり館の場所はわからなくなりました。

しかし、1994年（平成6）の発掘調査で、土居の外側に掘られた堀の一部を確認できました。堀は、幅が6～7m、深さ2.5mの規模で、14～16世紀前半の陶磁器や鏡が出土しました。調査面積



は小さく、館の全貌はわかりませんが、その場所が明らかとなり大きな成果をあげました。

現在、発見した堀の場所は、広場として開放されています。

富樫館跡絵図 1858年（安政5） ■：発掘調査推定地



発掘された堀 1994年（平成6）